



「地域の福祉、みんなで参加」
～ともにつくる心豊かなまちづくり～



10月1日から全国一斉に「赤い羽根共同募金」が始まります。昭和22年から始まったこの運動は今年で60年目を迎えます。今年のスローガンも昨年度に引き続き「地域の福祉、みんなで参加」です。

ひとりひとりのやさしい気持ちで、地域の福祉を支えています。

寄付する人も募る人もボランティアです。

皆さまのお気持ちをお寄せくださいますようご協力お願いします。



お知らせ／社協ではホームページを開設しました。(http://www.nagaizumi-shakyo.jp/)

おもいやりの心を
「赤い羽根」に託して
平成18年度目標額



赤い羽根共同募金
4,500,000円
(17年度実績額 4,653,636円)

歳末たすけあい募金
3,000,000円
(17年度実績額 3,412,840円)

①戸別募金

区長を通じて
町内各世帯に
募金の協力をお願いします。



②法人募金

地域の民生委員・
児童委員を通じて
募金の協力をお願いします。



さまざまなところで
募金を
呼びかけています。

③学校職域募金

学校や企業、
社会福祉施設、
各種団体に募金の
協力をお願いします。



④街頭募金

募金のシンボル
“赤い羽根”の広報活動と
募金へのご理解ご協力
をお願いします。



募 金

市町村の共同募金会

送 金

都道府県共同募金会

配分・地域へ

社会福祉協議会

社会福祉施設

社会福祉関係団体

社会福祉推進事業団体

税の特典

会社などの寄附金は全額損金算入することができます。
個人の寄附金は所得税控除の対象となります。

長泉町共同募金委員会

(長泉町社会福祉協議会内)

長泉町下土狩967-2

☎988-3920 (長泉町福祉会館)

愛ちゃん と 希望くん



1986年生まれの
共同募金のシンボル
キャラクター愛ちゃんが
姉で希望くんが弟です

100
古紙配合率100%再生紙を使用しています



平成18年度

赤い羽根共同募金運動がスタートします!

共同募金のシンボル 「赤い羽根」

「赤い羽根」を共同募金のシンボルとして使ったのはアメリカが最初です。これにヒントを得て、日本でも第2回目の運動(1948年)から「赤い羽根」をシンボルとして使いようになりました。当初は寄附したことを表すしるしでしたが、現在は「たすけあい」「思いやり」「しあわせ」のシンボルとして幅広く使われています。ちなみに中世のヨーロッパでは騎士道華やかかなりし頃、「赤い羽根」は勇気の象徴、善行または勲功の印でした。また、米国の先住民族の間では勇者の印でした。

海外で「赤い羽根」を使っている国は日本の他に南アフリカがあり、その他22カ国は、レインボーマークを使っています。



共同募金運動とは

毎年10/1～12/31まで全国一斉に行われます。誰もが住み慣れた地域社会の中で幸せにいきいきと暮らすことができるように、さまざまな民間社会福祉活動を財政面から支援する運動です。



歳末たすけあい募金とは

共同募金運動の一環として、12/1～12/31までの1ヵ月間、援助を必要としている人たちが安心して新年を迎えられるように展開されます。



災害ボランティアの支援も行う共同募金

大規模災害発生時の初動期に、高齢の方や障害のある方など社会的に支援を必要とする方のために救援活動を行うボランティアグループ・団体、または社会福祉施設などの活動にかかる経費の一部を支援しようという目的をもっています。



この広報誌は再生紙を使用しています。



赤い羽根共同募金

社会福祉協議会が、高齢の方、障害のある方、児童・青少年、地域の皆さまを対象に行う生活支援事業、社会参加事業、総合福祉事業などの、地域の方の福祉に対する理解や協力及び社会を基盤とする事業に対して配分されます。また、福祉活動を行う団体、施設などにもその事業費や、臨時費として配分されています。

主な活動の紹介

- ① 広報誌「福祉ながいずみ」の発行
- ② 社協ホームページの運営
- ③ 福祉健康まつりの開催
- ④ ひとり暮らし高齢者食事会「仲良会」
- ⑤ 老人クラブ連合会スポーツ大会記念品
- ⑥ 在宅指導援護車の購入



平成18年度 共同募金啓発ポスター



歳末たすけあい募金

地域のニーズがある方に実情にあった救助活動を一層充実させていきます。

主な活動の紹介

- 在宅の福祉ニーズがある方々への支援
(寝たきり、低所得者世帯など)
- 社会福祉施設入所者への支援

この広報誌には赤い羽根共同募金の配分金が使われています。